

# 山 紫 水 明

第62回 神宮式年遷宮奉祝記念号



「写真提供 神社新報社」

第 1 2 6 号



内宮・川原大祓

「写真提供 神社新報社」

## 第一二六号 目次

表紙	1
新会長挨拶	3
新執行部・監事挨拶	4
新役員挨拶	5
第八十二回神宮式年遷宮奉祝特別寄稿	6
「次回遷宮への思い」	6
平成二十五年度定例総会並びに 懇親会報告	8
平成二十四年度活動報告	10
各委員会報告	12
近畿地区報告	17
中央報告	20
平成二十五年度新入会員紹介	21
各次長紹介・編集後記	24

# 新会長挨拶



## 就任のご挨拶

会長 岩田 康彦



先ずをもちまして、謹んで聖寿の万歳と皇室の弥栄を御祈念申し上げます。  
神宮におかれましては本年、古来「皇家第一の重事、神宮無双の大宮」と重んじられる神宮式年遷宮遷御の儀が十月二日皇大神宮、十月五日豊受大神宮におきまして厳肅裡に恙なく御斎行されました事、誠に慶賀に存じ上げます。神宮への参拝者数も一千万人を超えた旨承り、我が国全体にこの奉祝の輪が広がる事を感じ、中、当会と致しましても一層の参宮促進活動に努めるとともに啓発活動に邁進して参る所存でございます。

また、昨年度は創立六十周年記念事業を田中会長のもと、諸先輩方が長きに亘り築かれたその歴史と伝統により様々な記念事業を完遂することができましたこと、皆様方の格別なるご理解ご協力の御蔭と衷心より厚く御礼申し上げます。

この度、去る七月の定例総会より、因らざるも京都府神道青年会の会長を仰せつかることとなりましたが、素より浅学非才の身の私は、その責務の重大さを日ごとに痛感致し日々を過ごしているところでございます。

しかし、お受けした以上はこの身を投じて、この伝統ある青年会を継ぐことなく努力して参る所存でございますので、各社宮司様をはじめOB諸先輩、協賛業者の皆様、関係各位には何卒倍旧のご指導ご鞭撻を賜りますよう心よりお願い申し上げます。  
さて、当会は周年事業も終え、特に大きな事業も予定されていないこの時期に何をすべきかと考えます時、やはり組織の拡充・事業内容の向上を目的とした活動ではないかと考えます。六十周年記念事業でリニューアルした当会HPは会員間の情報共有など組織力向上を目的とした活動ではないかと考えます。役員を始め会員各位には積極的に活用頂き、青年会の一員であることを認識して頂くことが大切に思います。我々の活動は会員の協力なくしては何も成し得ることはできません。私は会員一人一人の力が集まったとき、事業が大きくなり、その過程で育まれた結束力が内容をより高め、延いては組織を大きく成長させていくものと考えております。社務の都合などにより参加が難しい会員もおられる現状でございますが、どうか様々な形式で是非ご参加頂くことをお願い致します。その為にも先ずは会員が楽しみ、そして魅力溢れる企画を心がけていきたく存じます。

また、本年は近畿地区神道青年協議会が設立二十周年を迎え、来年度には神道青年全国協議会中央研修会が和歌山県の地にて開催されます。これらの事業にも積極的に参画することは、他府県の同志と連携を図り青年神職としての意識を共有することは貴重な経験であり大切に感じております。

これらの事業実施を始め、新たなスタートの年を役員各位にご尽力頂きながら、更なる発展のために会務運営に取り組み参ります。この二年間、微力ではございますが、皆様からお寄せ頂きました心を源に、青年会活動を通して広くその「和」が生まれる環境作りを努力して参ります。存じますので、皆様方にはご指導ご鞭撻賜りますよう宜しくお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。



# 新執行部・監事挨拶



**監事** 田中 朋清 (石清水八幡宮)  
 歴史と伝統ある当会の監事として、これまで学ばせて頂いた熱い神青魂を胸に、若さ(心)と元気(身体)を武器に精一杯頑張つて参ります。どうぞ今後とも宜しくお願い致します。

**事務局長** 松大路 和弘 (北野天満宮)  
 事務局として円滑な事務運営ができるよう微力ながら精一杯努めたく存じますのでご指導・ご協力をお願いいたします。

**副会長** 櫻井 宣人 (石清水八幡宮)  
 この度、副会長という大役を務めさせて頂くこととなりました。とてもその器ではございませんが、役員の皆さん、そして会員の皆さんと一緒に岩田会長をお支えし、当会の更なる発展に貢献できるよう力の限り努めさせて頂きます。

**副会長** 生薦 宏盛 (大將軍八神社)  
 「水無常形」水には形が無く、どんな形にもなります。京都府神道青年会という器の中のこれからの会務、水のように臨機応変に、時には流れに沿って、副会長の職を務めたいと思えます。皆で様々な形を作りましょう！

**会長** 岩田 康彦 (松尾大社)

**副会長** 中川 正盛 (朱智神社)  
 諸先輩方が脈々と受継がれてきた、栄えある京都府神道青年会の副会長という重責を仰せつかり、身の引き締まる思いでいっぱいです。微力ではございますが当会発展の為に、臨んで行く所存です。

**会計局長** 竹内 政裕 (八大神社)  
 多くのお社、関係者の皆様を支えられている会である事を強く自覚し、正確で円滑な会計業務に努め、会の活動を支えて参りたいと存じます。不慣れで行き届かないかと存じますが、ご指導、ご鞭撻の程、お願い申し上げます。

**監事** 稲本 高統 (大井神社)  
 二期目の監事を仰せつかり、身の引き締まる思いです。気持ちだけ(心)全国や近畿地区への協力の監査・・・ではなく、当会の活発な会務と適切な会計運用について、その任を務めさせて頂きます。宜しくお願いします。

## 新役員 挨拶



### 組織委員長

竹中 仁志 (八坂神社)

この度、組織委員長を仰せつかることとなり、日々の責務を痛感致しております。二年間という短い間ではございますが、この伝統ある京都府神道青年会の発展の為、職務を果たして参る所存でございますので、皆様方のご指導・ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

### 教化委員長

西野 貴洋 (伏見稲荷大社)

この度教化委員長という大役を仰せつかり、神道教化の責任を感じております。委員皆様と手を取り合い楽しく充実した活動になるよう微力ながら精一杯務めて参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

### 事業委員長

森川 英行 (由岐神社)

この度若田会長の御指名により事業委員長を務めさせていただきました。任期の二年間積極的に活動をさせていただきます、委員の方々と共に事業委員会を盛り立てていきたいと思っております。何卒皆様方のご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

### 広報委員長

上谷 義房 (松尾大社)

この度、広報委員長を務めさせて頂くこととなりました。このような大役を私が全うできるのか不安ではありますが、委員皆様と共に協力しながら、円滑な運営に努めてまいります。どうぞよろしくお願い致します。

### 渉外委員長

生寫 和顕 (平安神宮)

この度渉外委員長にご指名をいただきました平安神宮の生寫和顕です。このような役をいただくのが始めてでございます。委員の皆様に迷惑を掛ける事が多々あると思いますが精一杯頑張りますのでどうぞよろしくお願い致します。

### 親睦委員長

中森 圭治 (京都府社庁)

親睦委員会では委員のみならず、ご家族、各社職員の皆様と共に楽しめる企画を考えていきたいと思っております。どうぞお気軽に各種親睦行事にご参加下さい。皆様のお気に召す企画を当委員会でご準備させて頂きます。



## 第六十二回

## 神宮式年遷宮奉祝特別寄稿

## 「次回遷宮への思い」



京都府神社庁長  
石清水八幡宮 宮司

田中 恆清

第六十二回神宮式年遷宮遷御の儀が去る十月二日皇大神宮、五日豊受大神宮で天皇陛下御治定の下、何れも正午後八時に最も厳肅にそして古式のままに御齋行された。誠に慶賀の極みであり喜びに堪えない。

戦後四度目となる今次遷宮は、国民各界各層の真心によって募財活動も順調に進捗し、財団法人としての奉賛活動は予定期間一年前の平成二十三年二月に完了した。その後も全国神社庁を窓口とする募財は更に勢いが増し、募財目標額を大きく上回る成果を挙げ、遷宮に寄せる全国の神社氏子崇敬者の熱誠は今も尚続いている。

この事は今次遷宮の標語「遷宮で 結ぶ人の輪 心の輪」が広く深く実践された事に他ならない。千三百年の

間弛むことなく継承されてきた世界無比の国家的神事において、荒波の時代の中にあっても、人の輪と心の輪が強固に結びつき、為政者は変わっても千三百年の歴史と伝統文化はその度に昇華し、造営や御装束・神宝に係わる職人達はその主旨を継承し、当代最高の技術を以ってこれに携わってこられた。

冒頭に述べたように、今次遷宮遷御の儀は滞りなく御齋行された。勿論、これから遷御を迎えられる別宮十二社は、明年十月から明後年三月迄の間に順次御齋行される。しかしながら、内宮・外宮の遷御は相済まされたのであるから、既に次回第六十三回遷宮は始まったのである。二十年に一度とはいえ、神宮におかれては毎年毎年遷宮に



係わっておられるとも言えるのであり、次回遷宮への諸準備は年を追って進められることになるのである。

私共神道関係者は、この現実をしっかりと見据え、次の二十年にはまた時間があると捉えるのではなく、千三百年間に亘って継承されてきた遷宮を一つの時間枠と捉え、日々の神社奉仕の中に遷宮への意識を常に持ち、その思いを如何にして氏子崇敬者に伝えていくか、その担い手としての自覚の下に様々な教化活動を通じて次の世代へとその輪を広げていかなければならないと考えるものである。

小職は今次遷宮に臨み、与えられている自身の使命と役割を常に心に問いかけつつ、微力を尽くしてきたつもりである。その思いの一つは、遷宮に大きく関わっている地元・京都人の一人として、その歴史の重みと千年を超える都、京都の果たしてきた遷宮への大いなる関わりをしっかりと認識すると同時に、遷宮を支え伝えてこられた先人達の誇りと気概に思いをいたし、今に生きる私共が次の遷宮を担うべき人々と共にこれからも気を緩めることなく「皇家第一の重事・神宮無双の大営」たる遷宮の心を伝えるため努力を重ねてゆくことを共に誓い合いたいと思う。

京都府神道青年会を始め全国の神道青年が人の輪と心の輪を更に強固にしつつ次回第六十三回遷宮が盛大に御齋行されるよう更なる研鑽と精進を期待したい。

## 神宮式年遷宮奉祝事業

### 『神宮参拝 豊受大神宮旧御殿拜観』



去る十月三十日に第六十二回神宮式年遷宮奉祝事業として、執行部主催による「神宮参拝 豊受大神宮旧御殿拜観」が実施された。この事業は岩田会長を始めとする執行部がかねてより計画を進めていた事業である。

当日は「皇家第一の重事 神宮無双の大営」と重んじられる神宮式年遷宮の最重儀である遷宮の儀が十月二日に皇大神宮、十月五日に豊受大神宮にて恙なく齋行されましたことを奉祝し、

当会を挙げてご参拝申し上げるべく二十一名の会員が参加した。会員は京都駅に集合し、一路バスにて外宮に向かい、大きな交通渋滞もなく、予定よりも早く到着。まずは御垣内参拝をさせていただき、続いて御正宮の裏側を通り、旧御殿の拜観を行った。一步敷地内に足を踏み入れるとその雰囲気からは千三百年も連綿と続く、神宮の歴史、先人の心を感じずにはいられず、この特別な場所に足を踏み入れたことに参加者一同感慨深いものがあった。

御殿をこれだけ近くで拝見することができるとは、今後の機会は今後もあるのかどうかかわからない思いから、皆、隅から隅までを見渡していた。なかなか足を前に進めることができず、多くの時間を御殿の敷地内で過ごすこととなった。そして、ずっとここに立ち止まりたい気持ちであった。

昼食を車中で済ませ、内宮へ到着すると、まずは参拝者の数に驚かされた。これだけ多くの方が参拝に来られ、神宮に対する人々の関心の高さを感じたところである。

また、内宮にも予定より早く到着することができたため、当初は予定になかった御神楽を奉納することができた。しかもタイミングが良かったのか、当会のみで奉納をさせていただくこととなった。次に御正宮へと向かい、御垣内参拝をさせていただいた。この後はおかげ横丁で自由時間を取り、参加者各々で楽しい時間を過ごし、帰路に就いた。

第六十二回神宮式年遷宮遷御の儀が斎行された直後というタイミングでの参拝、旧御殿の拝観の機会をいただけたことは大変ありがたいと、良い経験をさせていただいたと思う。



## 定例総会報告

去る平成二十五年七月五日に京都東急ホテルにおいて、会員約九十名の参加のもと、平成二十五年定例総会が開催された。

まず、橋本副会長より開会の辞が述べられ、神宮遙拝、国歌斉唱、敬神生活の綱領唱和と次第通りに進められた。

次に当会に対し多大なるご尽力を賜り、悲しくもご逝去なされた先輩諸兄の御霊に対し、黙禱が捧げられた。

そして、田中会長の挨拶の後、議長に中島会員が指名され、議事に移った。まず、当会創立六〇周年記念事業報告と特別会計報告が行われ、次に平成二十四年度活動報告、決算報告、監査報告







がそれぞれ行われた。以上、五件が一括で審議され、異議なく承認された。

ここで今期の役員は会員席へ移動し、中島議長より先の臨時総会において承認された、岩田新会長、田中新監事、稲本新監事の紹介がなされた。次に役員改選に関する件として岩田新会長より次期の役員候補者の紹介がなされ、異議なく承認された。これにより、紹介を受けた候補者が新役員に決定し、役員席に席を移した。また、これに

合わせて岩田新会長より神道青年全国協議会、神道青年近畿地区連絡協議会への出向者の紹介に続き、事務局、会計局両新局長よりそれぞれの次長の紹介も行われた。

次に平成二十五年度活動方針案並び活動計画案が岩田新会長より、平成二十五年度予算案が竹内新会計局長より上程され、以上二件が一括審議の上、承認された。以上ですべての議事案件が承認を受けた。

そして、会歌を合唱し、櫻井新副会長の閉会の辞により、定例総会が滞りなく終了した。

この定例総会をもって、岩田新会長、新役員の下での新たな二年間の任期がスタートした



## 懇親会報告



定例総会終了後、引き続き懇親会が開催された。

懇親会には多くのご来賓、協賛業者、OB諸先輩の皆様にご出席を頂いた。

まず、開会に先立ち、ヤチマタ基金贈呈式が行われ、岩田会長より京都府神社庁長田中恒清様に目録が手渡され、固い握手が結ばれた。

次に次第に則り、中川副会長より開会の辞が述べられ、岩田会長の挨拶が行われた。そしてご出席を頂いている、ご来賓の皆様が一人ずつ紹介され、ご来賓を代表して京都府神社庁長田中恒清様と京都府氏子青年連合会会長小松隆志様よりご祝辞を頂戴した。次に祝電が披露され、吉田武雄先輩に乾杯の発声を頂いた。

懇親会の途中には新たにOBになられた先輩と新入会員の紹介が行われ、宴は和やかに進んだ。

最後に当会OB監事の加藤晃靖先輩による万歳三唱が行われた後、生島副会長より閉会の辞が述べられ、懇親会は終了となった。



平成二四年度 京都府神道青年会活動報告書

自 平成二四年七月一日  
至 平成二五年六月三〇日

年月日	内 容	人数	場 所
七月 二日	監査会開催	三名	北野天満宮
七月 四日	チャリティバザー収益委員会 定例総会直前役員会開催 平成二四年度定例総会開催	三名 一七名 七九名	京都府庁 平安神宮高麗 平安神宮記念殿
七月 九日	同 懇親会開催(総勢二八名) 神政連第二六回神道政治連盟 京都本部役員大会出席	七八名	平安神宮会館
七月 一〇日	近畿地区 第二回役員会開催	五名	京都センチュリーホテル
七月 二二日	教化委員会 第二回委員会開催	四名	権原観光ホテル
七月 二四日	日本会議・京都(平成二四年度定例総会 及び講演会並びに 日本会議全国総幹キヤラバン隊報告会)出席 皇太子殿下御参内参加	八名	平安神宮記念殿
七月 二四日	第一回役員会開催	七名	リーガロイヤルホテル京都 京都駅八条口
七月 二五日	京都府神社庁関係団体代表者懇話会出席	一〇名	松尾大社
七月 二六日	事業委員会 第二回委員会開催	二名	京都府神社庁
七月 二六日	近畿地区(堺・狭山・磯城郡)研修会(参加)	七名	梨木神社
七月 二七	渉外委員会主催「ヤチマタキヤラバン隊」開催	九名	石上神宮
七月 二七日	渉外委員会 第二回委員会開催	一四名	賀茂御祖神社
七月 三一日	親睦委員会 第二回委員会開催	八名	賀茂御祖神社
八月 二日	野球部 滋賀神青合同練習参加	七名	賀茂御祖神社
八月 六日	野球場「神宮・奈良神青親睦野球大会」参加	七名	皇子山第四グラウンド
八月 九日	教化委員会 第二回委員会開催	七名	岡崎公園野球場
八月 一七日	教化委員会主催「鎮守の社のお祭り体験」 開催(総勢一〇〇名)	九名	天竺
八月 二二日	渉外委員会 第二回委員会開催	九名	御香宮神社
八月 二二日	京都府神社庁「テニスコラボ」参加	七名	賀茂御祖神社
八月 二四日	第一回執行部会開催	八名	神宮・御殿場浜
八月 二四日	事業委員会 第二回委員会開催	七名	菜々荘
八月 二九日	神青協「平成二四年度夏期セミナー」参加	九名	青船ひろ文
八月 三一日	京都府神社庁「ヤチマタキヤラバン隊」 出発式参列	三名	國學院大學
八月三二日	ヤチマタキヤラバン隊 出発	四名	京都市内各地
八月三二日	親睦委員会主催「運動会」開催	五名	立正佼成会体育館
八月三二日	九月 七日	七名	天竺
九月 九日	広報委員会 第二回委員会開催	七名	松尾大社
九月 一〇日	渉外委員会 第二回委員会開催	九名	大將軍八神社
九月 二〇日	第一回役員会開催	一七名	

年月日	内 容	人数	場 所
十月 二日	第四回交通親善祭助勢	一〇名	京都西陣織会館
十月 二日	近畿地区 第二回役員会出席	四名	権原観光ホテル
十月 二日	近畿地区 第一回津城会出席	九名	権原観光ホテル
十月 二日	事業委員会 第二回委員会開催	八名	伏見稲荷大社
十月 二日	事業委員会 七五三ボスター発行		
十月 二日	近畿地区(星室)交通親善祭清浄奉仕(参加)		
十月 二日	愛媛県神道青年会 「再興足四〇周年記念式典」出席	二三名	京都御苑 大宮仙洞御所
十月 二日	京都府神社庁「第三八回神職大会」出席	会長	国際ホテル松山
十月 二日	広報委員会 第二回委員会開催	五名	京都プライムホテル
十月 二日	教化委員会 第二回委員会開催	七名	伏見稲荷大社
十月 二日	京都府神社庁共催 「神道行法講座研修会」参加	六名	平安神宮
十月 二日	第二回執行部会開催	六名	賀茂御祖神社
十月 二日	組織委員会 第一回委員会開催	九名	賀茂御祖神社
十月 二日	近畿地区(全国)親睦会「徳島県」 奉仕及び参列	四名	藤王神社
十月 二日	渉外委員会 第四回委員会開催	二名	若人の広場
十月 二日	近畿地区(全国)青年神職野球大会(練習参加)	六名	水原町「On the Wall」
十月 二日	京都府神社庁「秋の総り収穫祭ツアー」参加	二名	舞洲運動公園
十月 二日	第二回役員会開催	三名	大原神社
十月 二日	京都府神婦人連合会	九名	京都府神社庁
十月 二日	「第六三回全国神婦人大会京都大会」助勢	一〇名	国立京都国際会館
十月 二日	近畿地区「宮城東金華山黄金山神社」 「復旧支援活動」参加	六名	天竺
十月 二日	渉外委員会主催研修会 「講演研修会」もう「ランク上の字を」 開催(講師松丸清山氏)	二名	宮城東石巻市
十月 二日	教化委員会「七五三の集い」開催	四七名	吉田神社
十月 二日	第四回役員会開催	二名	平安神宮
十月 二日	次代会長選挙事務補佐者連絡委員会開催	一八名	平安神宮
十月 二日	事業委員会 第四回委員会開催	一六名	平安神宮
十月 二日	事業委員会 カレンダー発送作業	一名	松尾大社
十月 二日	事業委員会 カレンダー発送作業	一名	松尾大社
十月 二日	近畿地区 第三回役員会出席	八名	松尾大社
十月 二日	近畿地区臨時総会並第二回津城会出席	三名	興福寺・奈良白雲
十月 二日	京都府戦災復興局「復興祭」助勢	二名	興福寺・奈良白雲
十月 二日	組織委員会・親睦委員会主催 「〇日懇親会」開催	六名	ホテル京都カインパレス
十月 二日	神政連 「沖繩京都の塔敷堂参拝団研修旅行」参加	五三名	がんこ三本店
十月 二日	神青協「臨時総会」出席	三名	沖繩県高島宮古公園他
十月 二日		三名	神社本庁





年月日	内容	人数	場所
一〇日	事業委員会主催教養研修会 「菓子と信仰く和菓子作り体験を通じて」 開催講師 仏道前住主 太田達彦 第九回委員会開催	四名 六名	有楽寺 弘法堂 八大神社
二二日	渉外委員会 第九回委員会開催 京都府神社庁	二名	大原神社
二六日	〔春の恵田橋橋体験ツアー〕参加 近畿地区 平成二五年年度研修会出席 近畿地区 親睦野球大会参加	二名 二名	権原神社 福原運動公園
二七日	近畿地区 平成二五年年度研修会出席	七名	先に向
二八日	近畿地区 親睦野球大会参加	七三名	しょうざんホール
二九日	教化委員会 第七回委員会開催 総務委員会主催「ボウリング大会」開催	十名	北野天満宮 京都外国語大学
三〇日	総務委員会 機関誌「各志」九号発行 神道連「近畿地区協議会」出席	一五名	御香宮神社・山本本家・奥せい本店
四日	教化委員会主催「神社体験教室」開催 渉外委員会主催	九名 九名 二名	親宮八幡宮 賀茂別当神社 藤森神社
一四日	〔創設教養青年部会との交流会〕開催 〔総勢二二名〕	一四名	藤森神社
一六日	京都府神社庁 〔第一六回親睦の杜フェスタ〕参加	四名	リーガロイヤルホテル京都
一七、一八日	第四回執行部会開催 渉外委員会主催「チャリティバザー」準備作業	七名 七名 八名 八名	京都駅・京都府青眼・妙心寺他 伏見稲荷大社 京都府警署 冷泉家・京都府警察官会館他 ツバクロ スッポン食堂
一八日	渉外委員会主催「チャリティバザー」開催 二九、三〇日	八名	京都府警署 大山崎町分署・藤竹他 ホテルグランドヴィア京都
一九日	神道連京都府本部主催 第二七回会員大会参加	一〇名 一七名	花たぬき 河原町店 梅安大社
二二日	天皇皇太后陛下御奉送功参加 広報委員会 第六回委員会開催		
二三日	天皇皇太后陛下御奉送功参加 渉外委員会 第十四回委員会開催		
二四日	天皇皇太后陛下御奉送功参加 三木善則宮司さんの実習を修める会出席		
二四日	事業委員会 第九回委員会開催		
二六日	第二〇回役員会開催		
三〇日	広報委員会 会報「山嵐水明」第二五号発行		
三〇日	総務委員会 機関誌「各志」九八号発行		

## 委員会報告

### ● 教化委員会

#### 神社体験教室

去る六月四日、京都外国語大学の二七二教室をお借りして教化委員会主催により「神社体験教室」が開催され、約二十名の学生が参加した。

この事業は、日本人が古来培ってきた精神文化や美意識の一端に触れてもらおうと云う趣旨のもと開かれ、当日は会員が白衣・白袴で参加した。

講義内容として、来る平成二十五年十月の「遷御の儀」で最高潮をむかえる「式年遷宮」を中心に、「神社と寺院の違い」「神主の装束」等の説明をした。核家族化により年配の方との交流もなく、伝統文化に触れる機会があまりない現代に生きる学生たちは興味深く話に聞き入っていた。続いて学生は玉串拝礼の作法を教わった。

その後、実際に神籬祭祀による正式参拝を執り行い、一人一人が玉串を奉り参拝した。講義が終了した後も個々に会員と学生が会話







去る八月九日に賀茂御祖神社の境内をお借りして、教化委員会の主催による、青少年教化事業の『鎮守の杜のおまつり体験』を開催した。

## 鎮守の杜のおまつり体験

を弾ませ交流を深めていった。日頃感じている素朴な疑問を問いかける機会が持てたことは学生にとつて非常に有意義な時間であり、また、我々会員にとつても次世代に対して教化の一端を担えたのではないかと思う。



この事業は普段あまり神社に参拝する機会のない子供達に、鎮守の杜で楽しい時間を過ごすことにより、神社に親しみを持ち、参拝するきっかけになればと考え、毎年開催をしている。



当日は約五十名の子供達が参加し、スイカ割りや紙ヒコーキ選手権などの催しを楽しんでいた。また当会会員による、ジャグリングとバルーンアートも行われ、参加の子供達から驚きの声と歓声が上がった。子供達には糺の森の緑深きご神域で過ごしたひとときは楽しい思い出になったと思う。今後、神社にお参りする気持ちが少しでも芽生えてくれることを期待したい。最後に、今回神社の境内をお貸し頂きました賀茂御祖神社様に御礼申し上げます。



## 事業委員会

当会事業委員会では毎年恒例の七五三ポスターを作成し、モデルには当会会員のお子様を務めていただきました。ご協力をいただきました皆様、ありがとうございます。

また、当ポスターは各神社などに頒布をさせていただきまして、

そして、当ポスターはプライダルハウス・オエ様、タカミブライダル様、株式会社京鐘様のご協賛により作成させていただきました。本年は、プライダルハウス・オエ様にご担当をいただきました。



## 渉外委員会

## 御嶽教教師青年部との研修会

去る六月十四日、渉外委員会の担当にて御嶽教教師青年部との合同研修会・懇親会が開催され、田中会長を始め十五名の会員が参加した。この会は御嶽教教師の全国大会が関西で行われるのに合わせて二年に一度開催しているもので、今回の研修テーマは「伏見の酒」。

当日は梅雨どきとは思えないほどの快晴に恵まれ、厳しい暑さの中での研修となった。一行はまず御香宮神社に正式参拝し、三木宮司様より神社の御由緒や御本殿の建築等に関して御説明を頂いた。

その後、清酒「神聖」の醸造元である山本家へ移動し、社長の十一代山本源兵衛様を講師にお迎えして、酒どころ伏見の地酒に関する研修を行った。前半の蔵見学では工場内の醸造施設をひとつずつ紹介して日本酒の製造工程を説明いただき、その後の講義では伏見の酒造りの歴史や特徴、その中でも清酒「神聖」のこだわりなど、詳しくご教授頂いた。

夕刻からは伏見「鳥せい本店」において懇親会を開催した。山本家様より大吟醸酒の差し入れを頂戴し、昼の研修会





で説明を頂いたばかりの「神聖」を参加者一同たつぷりと味わいながら、大盛況のうちに全日程を終了した。

## チャリティバザー

去る六月十八日 藤森神社境内の拝殿をお借りして毎年恒例の渉外委員会主催『チャリティバザー』が開催された。心配していた天候も好天に恵まれ、田中会長、高井渉外委員長以下十四名の会員参加であった。

当日は『紫陽花まつり』が催されており多くの参詣者で境内は大変な賑わいをみせていた。そんな中の開催とあって会員一同が搬出、陳列等準備作業を行っている最中にも関わらず、開店前より多くの婦人等が開店を今か今かと待ち続け予約をする人も…時間を十五分ほど早めての開店であった。



開店と同時に待ち続けた皆が拝殿に詰めかけ、一様に品物を吟味し彼方此方で値段交渉の声が聞こえていた。会員は皆このバザーの収益金が交通災害遺児への寄付であることを懸命に説明し、来場者に理解を求めている。

日頃ご社頭で参詣者と交わしている会話とは異なり、物品の好みや拘わり、普段の生活の話等色々な会話や関わりが出来たことは会員にとつて良い経験になったのではないかと思う。

最後に境内をお借りし、ご配慮を頂いた藤森神社の皆様、又多数の協賛を頂いた方々に紙面をお借りして御礼申し上げます。

## ヤチマタ基金募金活動

去る七月二十日に渉外委員会主催による『ヤチマタ基金募金活動』が実施された。賀茂御祖神社のみならず祭に合わせて実施され、岩田会長を始め十四名の会員が参加した。

約二時間の募金活動で四萬五千

二百二十拾六円の募金を頂戴することができた。そしてこの募金は交通災害遺児に対する奨学助成の目的で京都府神社庁を通じて寄付をいたします。

最後に境内をお貸しをいただきました賀茂御祖神社様に御礼申し上げます。



## 親睦運動会

九月六日、石清水八幡宮体育館において、親睦委員会主催の『親睦運動会』が開催された。約八十名の参加者の中には会員の子供もおり、とても元気な声が響く中始まった。

岩田会長による挨拶、そして選手宣誓の後、赤・青・黄・緑の四組に分かれ、いよいよ競技スタート。大縄跳び・イス取りゲーム・十七人十八脚・リレーと、小学生の時を思い出す様な懐かしい種目ばかり。当時はいくら遊んでも疲れ知らずであったのに、今では一種目終える毎に息が上がってしまう現実にさらされる会員も多くいたのではないか。何とも情けない事だが、童心に返り夢中で遊び、参加会員皆楽しんでる姿が印象的であった。

また途中には、子供達によるキャタピラレースも行われ、必死にゴールのお父さんを目指して進んでいく子供達の姿がとても可愛らしく、疲れた会員達の心を癒す一幕もあった。

終始和やかな雰囲気の中全種目が終了。結果は田中監事率いる青チームの優勝であった。普段接する事の少ない者同士が一致団結して、競技を通じて親睦を深め合う事が出来た運動会であった。





## 近畿地区報告

### 禊・鎮魂鍊成研修会

去る八月十九・二十日、奈良県神道青年会主催による、毎年恒例の「禊・鎮魂鍊成研修会」が、奈良県天理市の石上神宮にて開催された。

今回の研修会には、近畿各府県から二十名もの会員が参加し、当会からは九名の会員が参加した。

二日間、禊と鎮魂を行い、参加者一同白衣白袴に身を包み、真剣な姿勢で研修に臨んだ。普段の社務ではなかなか禊・鎮魂を行う事ができない為、各々にとって貴重な体験となった。また、十九日の午後八時から勉強会が行われ、奈良県桜井市教育委員会の榎原祥弘氏による『震災一年半後の岩手県山田町〜東日本大震災被災地研修・報告〜』と題しての講演を拝聴した。

そして、二十日の閉講式後には、直会が行われ、終始和やかな雰囲気の中、普段は交流する機会の少ない他府県の会員との懇親を深める事ができ、貴重な時間を過ごす事ができた二日間となった。



### 第一回連絡会



去る平成二十五年九月十八日に滋賀県神道青年会の当番により、神道青年近畿地区連絡協議会第一回連絡会が琵琶湖ホテルにおいて開催され、当会より十五名の会員が参加した。

まず、持田副会長より開会の辞が述べられ、神宮遙拝、国歌斉唱、敬神生活の綱領唱和が行われた。次に稲本会長（当会監事）の挨拶、滋賀県神道青年会山本会長の挨拶が行われ、続いてご臨席を頂いているご来

賓の神道青年近畿地区連絡協議会参与の文室久明様よりご挨拶を頂戴した。

次に報告事項に移り、中央報告、特別委員会報告、事業委員会報告、各単位会報告がそれぞれ行われた。

そして神道青年の歌、美はしき山河を斉唱し、瀧澤相談役の聖寿万歳、長谷川副会長の閉会の辞で第一回連絡会が終了した。

引き続き、懇親会が開催され、稲本会長の挨拶の後、ご臨席を頂い



ているご来賓が紹介され、滋賀県神社庁参事笠島実俊様からご挨拶を頂戴した。また、参議院有村治子議員の秘書村田小百合様より七月に行われた参議院議員選挙における協力と当選に対するお礼のご挨拶に続き、顧問の尾崎忠磨様に乾杯の発声を頂き、その後参加者それぞれが他府県の会員との交流を深めた。最後に参与の稲毛友幸様より中締めのご挨拶を頂戴し、懇親会は閉会となった。

## 研修会

今回も連絡会に先立ち研修会が開催された。近江神宮勸学館において、大津あきのた会副会長の石沢直樹様を講師にお招きをして、～未来を見すえた教化活動実践に向けて～『百人一首から広がる日本の文化』と題して、ご講演を頂戴した。

初めに百人一首の説明とカルタの歴史、競技カルタの成り立ち、そして現状についてお話をなされた。先生はまずは百人一首に興味を持ってもらい、カルタに親しんでもらうことが大切であり、そこから日本の文化に対する興味の広がり期待されているとのことであった。

次に選手の実戦を先生の解説を交え見学させて頂いた。選手の実際の動きの速さを見て、参加者皆が驚きの表情を見せていた。やは



り、テレビのニュースなどで見るのと、実際に目の前で見るのと迫力の違いを感じていた。最後に参加者全員で競技カルタを実際に体験させて頂いた。多くの参加者がカルタに熱中し、日本文化の一端に触れ楽しんでいた。

## 皇室関連施設清掃奉仕



去る平成二十五年九月二十七日に修学院離宮において皇室関連施設清掃奉仕が実施された。毎年恒例の皇室関連施設清掃奉仕であるが、今回の奉仕場所の修学院離宮は二年前に実施をさせて頂く予定であったが、その年の九月に起こった和歌山県の豪雨災害により、多くの被害を受けた熊野那智大社への復旧支援活動を実施するために急遽中止になった場所であり、二年越しの清掃奉仕である。

当日は秋晴れの清々しい天気のもとで、当会より二十一名が参加し、総勢三十七名での奉仕となった。

まず、当会の岩田会長と生寫渉外委員長より挨拶があり、その後、修学院離宮の職員の方より当日のスケジュールなどの説





明を受けた。

清掃奉仕が始まると奉仕者各自がほうき、熊手を手に持ち、日頃の清掃で培った力を十分に発揮して、多くの場所を清掃することができた。清掃後、職員の方に施設の案内をして頂き、奉仕者各自興味深く話に耳を傾けていた。

また、宮内庁京都事務所の川嶋様より清掃奉仕に対するお礼と天皇皇后両陛下に定期的な清掃奉仕があった旨を報告しているとのことのお言葉を頂戴した。

清掃終了後、場所をホテル平安の森京都に移して、懇親会が開催された。共に汗を流し奉仕した者同士、和気藹々とした雰囲気の中、懇親を深め一日が終了した。

最後に、清掃奉仕の受け入れの為に諸準備を下された修学院離宮の職員の皆様に御礼申し上げます。



## 第十九回 全国戦歿学徒追悼祭

十月二十一日、午前十一時より兵庫県南あわじ市「若人の広場」に於いて、全国戦歿学徒を追悼する會主催による「学徒出陣七十年 第十九回全国戦歿学徒追悼祭」が斎行された。本年は学徒動員開始の昭和十八年より七十年を数える節目の年である。

近畿地区の長谷川副会長が齋主を務め、各单位会より祭員九

名・伶人三名の奉仕で執り行われた。当会より岩田会長が参列、又櫻井副会長、猿渡会員が祭員として奉仕した。

追悼祭は全国戦歿学徒を追悼する會永田会長による挨拶、国歌斉唱の後斎行され、祭典中には御英霊をお慰めする為、海上自衛隊喇叭隊による「國の鎮め」等の吹奏、神楽「みたま慰めの二人舞」奉納、東山寺住職による般若心経読経、キリストの幕屋による「海ゆかば」「わがやまとのくに」奉唱が行われた。そして還魂の儀を以て、追悼祭神事は滞りなく齋了した。



## 中央報告

### 平成二十五年度

#### 神道青年全国協議会夏期セミナー

「真の皇室のお姿を拝して」

去る八月二十七日、二十八日の二日間に亘り、神社本庁にて神道青年全国協議会平成二十五年度の夏期セミナーが開催され、全国各地より約百三十名の参加があり、京都からは、岩田会長以下六名が参加した。

神社本庁大講堂にて開講式が執り行われ、第一講として現在宮内庁式部官（儀式担当）をしておられる飯塚秀行先生による「天皇陛下の御日常」と題する講義を賜り、第二講には現在、



皇室ジャーナリストとして、皇室特番のアドバイザー、コメンテーター、講演講師として活動すると共に歴代天皇の詔勅研究に参加し、研究員として携わっておられる高清水有子先生による「天皇皇后両陛下のお人柄と皇室のいい話」と題する講義を賜った。それぞれの地域の氏子・崇敬者に対して、世界に誇れる皇室の尊さや宮中祭祀の意義を正しく伝えていく責務について参加者一人一人が自覚を持



つ大変有意義な講義内容であった。

二日目は皇居桔梗門前に集合し、第三講として皇居参観を行った。実際に皇居を参観することで、その歴史と神聖な空気を肌で感じ、神職として日々の神明奉仕に励み祭祀の厳修に資するべく、その一助となるようにと開催された今回の夏期セミナーの目的を参加者たちは再認識した。皇室の尊厳護持のための研鑽を深め二日間の研修会を無事終え各自帰路へと就いた。

#### 東日本大震災復興支援活動

去る九月四日から五日にかけて、福島県双葉郡浪江町において復興支援活動が実施された。全国より多くの会員が参加し、当会からも高井会員（貴船神社）、猿渡会員（石清水八幡宮）が参加した。

今回はこの地域にある三つの神社の復興支援活動が行われた。今後このような活動が継続的に予定されており、当会からも多くの参加があることを期待したい。







- ① 岩切 瑞輝
- ② 平成元年十月十九日
- ③ 鹿児島県
- ④ 賀茂御祖神社
- ⑤ 組織委員会
- ⑥ 人間観察
- ⑦ 俗っぽいところ



- ① 進藤 大長
- ② 昭和六十一年五月三十一日
- ③ 京都府
- ④ 大石神社
- ⑤ 組織委員会
- ⑥ 野球、ゴルフ、ダーツ、テニス、フットサル、eスポーツ
- ⑦ 行動が遅いこと



- ① 千葉学
- ② 平成元年十二月二十六日
- ③ 東京都
- ④ 賀茂御祖神社
- ⑤ 渉外委員会
- ⑥ 野球観戦
- ⑦ 口下手なところ



- ① 鈴木 杏菜
- ② 平成二年九月十日
- ③ 神奈川県
- ④ 賀茂御祖神社
- ⑤ 組織委員会
- ⑥ イラストを描くこと
- ⑦ そそっかしいところ、うっかりミスが多すぎるところ

平成二十五年度

# 新入会員紹介

今年度入会の新人会員を紹介します

- ① 名前
- ② 生年月日
- ③ 出身地
- ④ 奉務神社
- ⑤ 所属委員会
- ⑥ 趣味
- ⑦ 直したい所



- ①吉田 武洋
- ②昭和六十年六月二十日
- ③京都府
- ④豊國神社
- ⑤広報委員会
- ⑥音楽鑑賞
- ⑦消極的な部分が多いと思うので、出来るだけ積極的に、自信を持って行動するように心掛けたい。



- ①大瀧 徳子
- ②平成元年九月九日
- ③石川県
- ④御香宮神社
- ⑤広報委員会
- ⑥ソフトテニス
- ⑦おつちよこちよいなところ!!



- ①上葛 将司
- ②昭和六十三年十月六日
- ③愛知県
- ④北野天満宮
- ⑤渉外委員会
- ⑥アイドル鑑賞
- ⑦自分が何を言っているのかわからないところ。



- ①大西 正司
- ②昭和六十年十二月二十一日
- ③大阪府
- ④伏見稲荷大社
- ⑤広報委員会
- ⑥スキー
- ⑦暴食癖



- ①水戸 康隆
- ②平成二年五月十六日
- ③神奈川県
- ④伏見稲荷大社
- ⑤親睦委員会
- ⑥自転車、旅行
- ⑦記憶力の無さ



- ①守分 仁成
- ②平成元年九月十一日
- ③岡山県
- ④伏見稲荷大社
- ⑤組織委員会
- ⑥バルーンアート、カラオケ
- ⑦文章を書くのが苦手なところ





- ①室川 豊史
- ②平成二年十月九日
- ③滋賀県
- ④平安神宮
- ⑤教化委員会
- ⑥バス釣り
- ⑦身長が低いところ



- ①藤田 敦士
- ②平成二年九月十九日
- ③東京都
- ④平安神宮
- ⑤組織委員会
- ⑥アイドルプロデュース
- ⑦空気の読めないところ



- ①小松 正佑
- ②平成二年八月二十八日
- ③兵庫県
- ④平安神宮
- ⑤渉外委員会
- ⑥サイクリング
- ⑦少し怠惰なところ



- ①下村 知大
- ②平成元年八月十七日
- ③山口県
- ④八坂神社
- ⑤組織委員会
- ⑥三味線
- ⑦不器用なところ、食生活の偏り



- ①和辻 洋平
- ②昭和五十九年十一月一日
- ③奈良県
- ④松尾大社
- ⑤事業委員会
- ⑥スポーツ、絵を描くこと、ツーリング
- ⑦全体的に大雑把なところ、力加減が上手くできないところ



- ①泉波 宏宗
- ②平成二年二月二日
- ③北海道
- ④松尾大社
- ⑤親睦委員会
- ⑥サッカー
- ⑦人相を良くしたい

## 事務局・会計局各次長 紹介

当会には会務運営を円滑にするために事務局並びに会計局が設置されています。それぞれの次長は局長からの指名により決まり、局長の補佐をする役職です。



会計局次長  
**橘 重史**(伏見稲荷大社)  
岩田会長始め役員の皆様の足を引つ張らないように頑張つて参ります。よろしくお願いたします。



事務局次長  
**丸茂 広知**(八坂神社)  
松大路事務局長のお力になれる様、努めてまいります。どうぞよろしくお願いたします。

## 編集後記

岩田会長の下、新たな広報委員会として初めての山紫水明の発行となりました。無事に発行できましたことに今は安堵の気持ちでいっぱいです。

今号を第六十二回神宮式年遷宮奉祝記念号として発行するに当たり、この度の御遷宮諸行事に中心として携わっておられる京都府神社庁長田中恆清様にはお忙しい中、玉稿を頂きましたこと、この場をお借りし深く感謝申し上げます。

また、各事業に対し、原稿の執筆にご協力を頂きました会員の皆様、ありがとうございます。

今後も多くの皆様の協力の下、編集作業を進めたく思いますので、よろしくお願申し上げます。

また、ご意見、ご要望等がございましたら、お近くの広報委員までお伝え下さい。

## 『山紫水明』第一二六号

題 字 頼新先生  
編 集 広報委員会  
発行所 京都府神道青年会  
発行日 平成二十五年十一月三十日  
印刷 株式会社ユニティー

